

2年学年通信

第15号



2022.11.16

プロの職人さんによる実演講演会

11月11日(金)、キャリア教育の一環として、プロの職人さんによる仕事の紹介と技能の披露があり、その後、実際にその仕事を体験させていただきました。

美容



- 美容の道に進む学生達がんばっていることを聞いて、辛い道だなと思った。だけど、みんな自分のなりたい職に就きたくてがんばるのがすごいなと思った。

- 最初「マネキン怖っ！」って思ったけど、名前をつけて呼びながら髪を切っていると愛着が湧いて、最後お別れをするときには、かわいくて仕方なかった。
- 仕事で使っているはさみが15万円で、高いと数百万円と聞いてびっくりしたが、実演で使ったはさみも5万円と聞いて、雑に使っていなかったかと心配になった。
- 仕事にコミュニケーション能力は大切だけど、仕事を楽しむためには、体が元気なことも大切だなと改めて思いました。



製図



- 職人さんが描かれた「ダグラスDC10」の構造説明図を見たが、客席一つ一つや翼の鉄骨まで緻密で、パソコンのない時代に描かれたと聞いて、精密さに心底驚いた。
- 今までパンフレットや製品取扱説明書の絵や図を見ても何も感じなかったが、一つ一つ人の手で設計されていると知り、やっぱり私たちの生活は誰かがいるおかげで成り立っているんだなと感じた。
- 難しいものもたくさんあったけど、それがまた達成感を得ることができて、生きているって感じがする。
- どんなことも無駄ではなく、回り回って自分の糧となり役に立つという言葉が印象に残った。
- 話を聞いて、仕事は自分の好きなことをすればいいし、もしできなかつたら別のことに挑戦すれば、もっと仕事の幅が広がると考えた。

工場板金



- 仕事をするとお金はお金もらえるけど、それ以上に「ありがとう」など感謝の言葉やお客さんの笑顔が返ってくるとおっしゃっていました。その話をしている皆さんが幸せそうでした。辛いこともあるけど、幸せもたくさんあるという言葉が心に残りました。
- 「親は家事という仕事をしているけど、それをしてお金がもらえるのではなく、子どもの笑顔を見るためにしているんだよ。」という言葉に、とても納得した。
- 最初に車のフェンダーをたたいて、へこみを直す作業をしました。たたく物と裏でおさえられている物が上手く当たっていなければ、キーンという音が鳴らなくて、とても難しかったです。
- 自分で三輪車などを作って大会に出たりもすると聞いて、「この人達は仕事を楽しんでやれるんだなあ、すごい！」と思った。板金の人たちはみんな仲が良さそうで、すごくいい職場だなと思った。
- 「世の中のお仕事は、それが得意な人がその職業に就き、苦手な人を助けてあげる、補ってあげる」とおっしゃっていました。身のまわりを考えると、私の苦手なことを職業にして助けてくれている人がたくさんいます。私も自分が得意なことを生かして、苦手な人を助けたり、笑顔にしてあげられるような職業に就きたいと思いました。



保護者の皆様へ

2年生ではさらに今後、服部記念病院のスタッフの方々による講演会を予定しています。

仕事についてもネットですぐに検索できて、わかったような気になってしまう今の時代だからこそ、本物の職業人に出会い、直接語られる実感を伴った言葉が大切なのだと考えています。

夏休みに保護者の皆様からいただいた「仕事を学ぶ中学生へのメッセージ」も廊下に掲示中です。人生の先輩からの生きた言葉として、生徒達の心に届けばと思っています。

学校での学習の成果を、是非ご家庭でも話題にいただければ幸いです。

